

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

やぞ』。そう言われて、あらためて自分が中年になったことを意識し始めました。そして、今一つのことを考えています。そのことを考え始めると嫌になることもあります。でも、その自分が、時々思い出す言葉があります。室町時代の猿楽師であった世阿弥の言葉です。「しかれば当流に万能一徳の一句あり。初心忘るべからず」。この言葉はイエスを失った後、生きていった弟子たちの思いに重なる言葉であり、今のわたしにじっくりくる言葉です。皆さんにとってはどうでしょうか？

#### 【講師紹介】小西陽祐（こにし・ようすけ）先生

1980年大阪生まれ。1986年から1998年までを札幌で過ごす。自称札幌育ちの関西人。1998年関西学院大学神学部（兵庫県）に入学。2002年同志社大学神学部大学院（京都府）に入学、しかし人生に迷い、退学をする。その後、長野県のレタス畑で住み込みで働き、2004年10月から5ヶ月間、沖縄県名護市辺野古で行われている米軍新基地建設反対の座り込みに参加し、その後の人生を大きく変える出会いをする。2005年から大阪の教会に牧師として赴任し、2008年から余市教会とリタ幼稚園園長として赴任。2018年からは現在の日本キリスト教団北海教区幹事としての働きを与えられている。

#### 【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝後にオルガン前で練習をします。後学期には、クリスマス・コンサートもありますので、積極的にご参加ください。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。

#### 【次回の大学礼拝】2019年6月18日（火）10時40分

次回の大学礼拝は、本学出身の三浦照男先生に奨励をご担当いただきます。三浦先生はインド・サンヒッギンボトム農工大学教授として、インドの農業の発展と人権の問題に取り組んでおられます。例年同様、礼拝後に昼食会を行います。先生のお話をより深く知りたい学生やインドに興味がある学生、そして三浦先生と一年ぶりの再会を楽しみにしている教職員のみなさん、各自で昼食を持参してお集まりください。詳しくは、次週の週報をご覧ください。みなさんのご出席をお待ちしています。

#### 【前回の大学礼拝】2019年6月4日（火）

学生 364名 教職員ほか 9名 合計 373名

## 【大学礼拝週報】 2019年度 第8号（前学期第8号）

2019年6月11日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

### 《大学礼拝》

司 式 小林昭博（宗教主任）  
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）  
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「神をほめまつらん、祝しまつらん」（J. C. バッハ作曲）  
讃美歌 讃美歌21 417番（聖霊によりて）  
聖書 マタイによる福音書26章69-75節  
祈り  
さんび 酪農学園大学聖歌隊  
奨励 「おまえ、もう中年やぞ」 小西陽祐  
報告  
讃美歌 讃美歌21 480番（新しい愛をめざし）  
後 奏 「主よ、われらを汝のみ言葉のもとに保ちたまえ」  
(ハーセ作曲)

#### 【本日の聖書】マタイによる福音書26章69-75節

69ペトロは外にいて中庭に座っていた。そこへ一人の女中が近寄って来て、「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」と言った。70ペトロは皆の前でそれを打ち消して、「何のことを言っているのか、わたしには分からない」と言った。71ペトロが門の方に行くと、ほかの女中が彼に目を留め、居合わせた人々に、「この人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。72そこで、ペトロは再び、「そんな人は知らない」と誓って打ち消した。73しばらくして、そこにいた人々が近寄って来てペトロに言った。「確かに、お前もあの連中の仲間だ。言葉遣いでそれが分かる。」74そのとき、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「そんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、鶏が鳴いた。75ペトロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエスの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

#### 【学生へのメッセージ】

最近、ある時、67歳になる父親から言われました。『おまえ、もう中年